

仲間と繋いだ日本一のバトン



山口県で開催された全国中学校体育大会 第53回全日本中学校陸上競技選手権大会の男子400メートルリレーで優勝し、男子200メートルで準優勝した大橋拓真選手(陸岐道所属 高田中学校 3年)が、8月28日(金)に川地憲元町長を訪問しました。

川地町長が「アンカーとしてバトンを受け取り、前を走る選手を抜いていく姿はとても格好良く、感動しました」と話すと、大橋選手は「個人戦でも優勝を狙っていたので、準優勝という結果は本当に悔しかったです。リレーではバトンを受け取ったときに前を走る選手が目に入り、一瞬焦りましたが、自分の足を信じて走り切りました。今後の大会でも優勝を目指して練習していきたいです」と今後の抱負を話しました。

バレーの“二刀流”



神奈川県で開催される湘南藤沢カップ J V A 第17回全日本ビーチバレーボールU15選手権大会 4人制および大阪府で開催される J V A 第29回全国ヤングクラブバレーボール大会に出場する西川宙治選手(フレンズ所属 高田中学校 1年)が、8月17日(月)に川地憲元町長を訪問しました。

川地町長が「それぞれ異なる環境、異なる魅力を持つ2つの大会へ、まさに“二刀流”での出場となりますが、これまで培ってきた力を存分に発揮し、それぞれの舞台で素晴らしいプレーをしてきてください」とエールを送ると、西川選手は「これまで協力してくれた家族や関係者の人たちに感謝し、それに応えるためにも少しでも良い結果を残したいです」と大会への思いを話しました。

養老健幸プロジェクト、始動



町と国立大学法人東海国立大学機構 健康医療ライフデザイン統合研究教育拠点(C-R E X)は、健康なまちづくりの実現に向けた共同研究「養老健幸プロジェクト」の開始式を8月31日(月)に行いました。

このプロジェクトは、PHR管理アプリ「SaluDi(サルディ)」を用いて、町民の歩数や血圧などの健康に関するデータを収集し、医療や介護のデータと併せて東海国立大学機構において解析を行うことで、介護や生活習慣病の発症や重度化につながる町健康課題を明らかにし、健康寿命の延伸や医療費の適正化につなげることを目的としています。なお、本事業は、2040年に向けた町民(特に高齢者)の自立と持続可能な町の運営を両立する先駆けと位置付けています。

地域の防災意識を高める



8月30日(日)に広幡小学校および広幡こども園にて、清流の国ぎふ防災・減災センター、養老警察署、町消防団、町社会福祉協議会、町赤十字奉仕団、町女性防火クラブの協力のもと、町と町消防本部が主催となり防災訓練を実施しました。発生の切迫性が高まってきている南海トラフ地震へ備え、地域の防災意識の高揚を図るとともに防災力の充実強化の実現を目的として、広幡地区と上多度地区の防災隊が参加し、避難訓練、防災出前講座、応急手当訓練、避難所開設訓練、防災・減災に関する啓発展示、炊き出し訓練を行いました。参加者は各訓練をとおり、自助や共助を中心とした災害への備えについて学び、その重要性を再確認しました。